

テロ情勢

平成27年9月12日

在ケニア日本大使館

領事・警備班

テロ組織アル・シャバーブ (AS)

現勢

- ・ 3,000人以上

現況

- ・ 残虐性・危険性（イスラム教徒以外の者、女性をも処刑）
- ・ リクルート活動の活発化
- ・ テロ組織 I S I L やボコ・ハラムとの連携

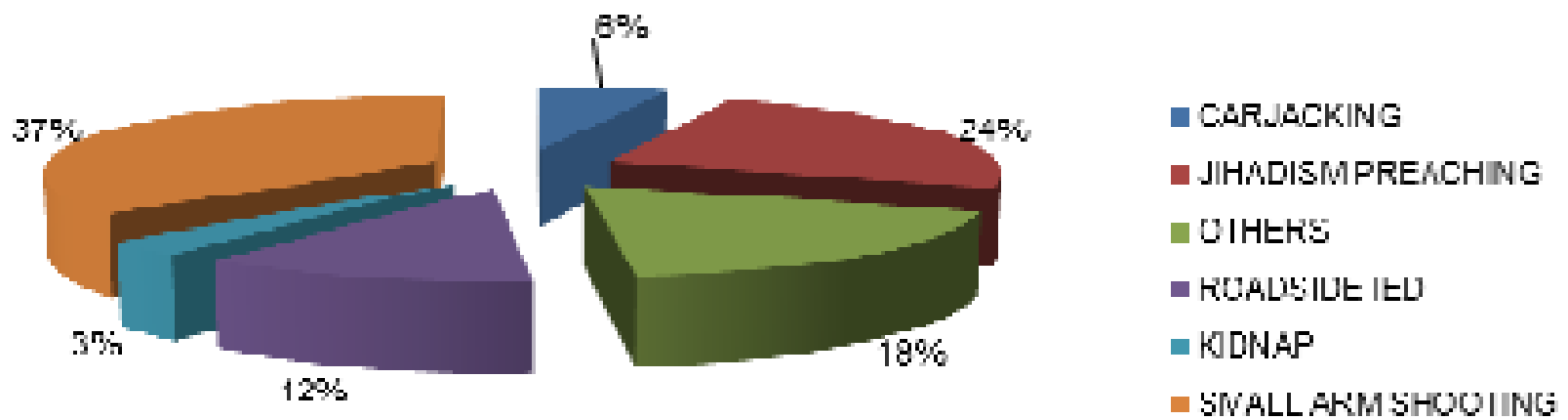
見通し

- ・ 大規模テロ攻撃発生の高い可能性
(ナイロビ、ケニア北東部、沿岸部)
- ・ I S I L との連携によるASのテロ攻撃の激化？

当地治安機関による

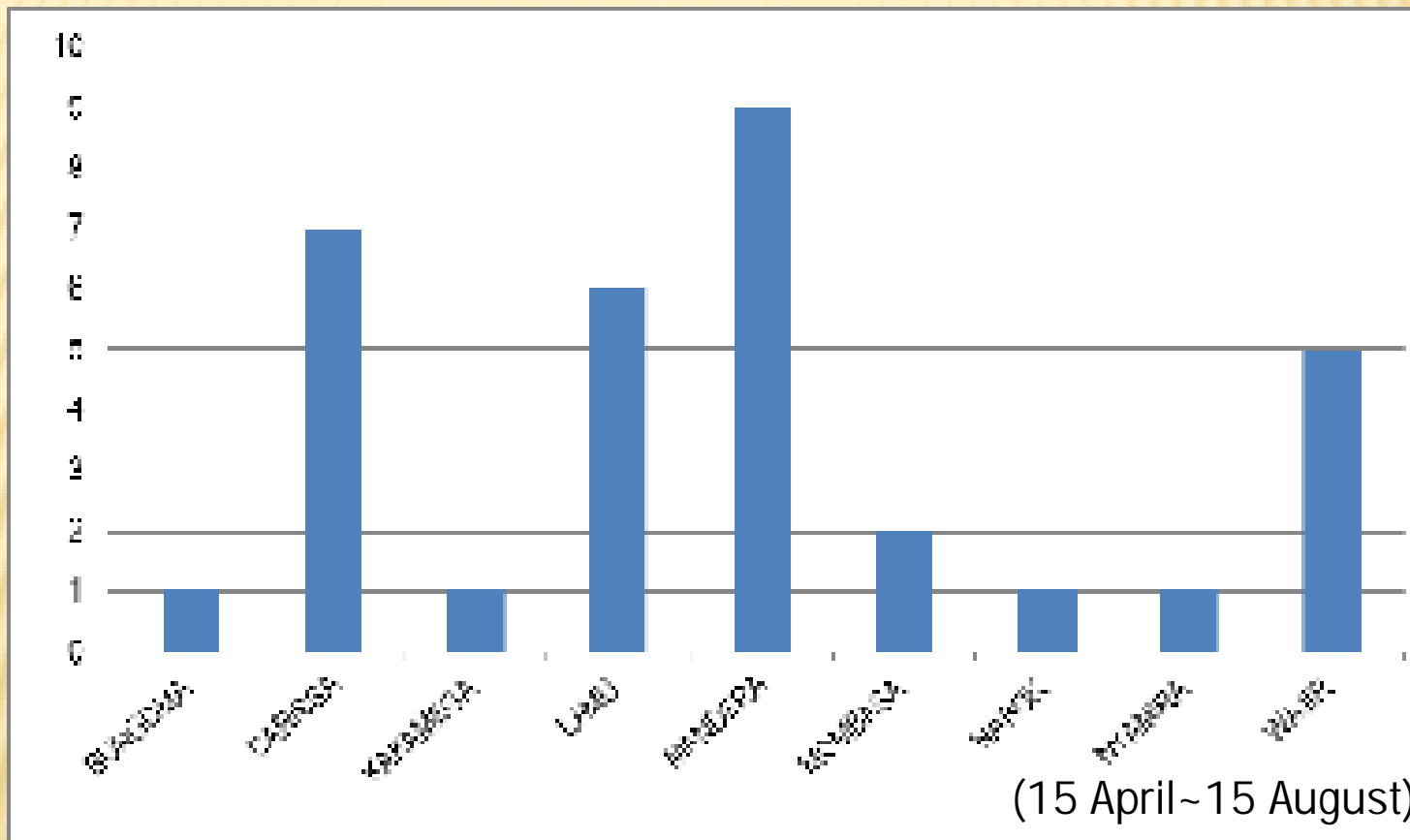


テロ事案の分類



(15 April~15 August)

テロ事案発生状況（地域別）

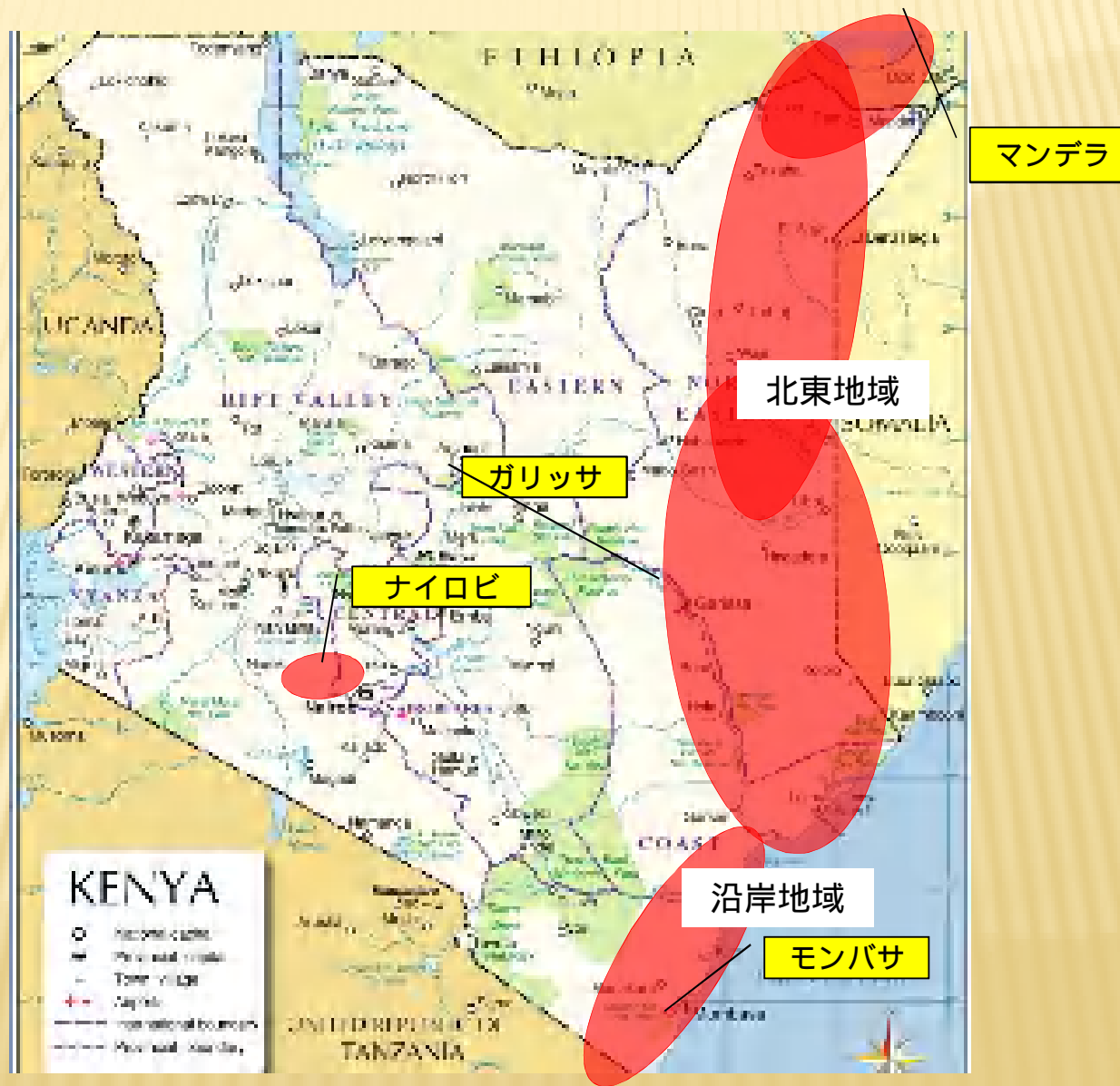


テロ攻撃のターゲット

要警戒施設

- 1 . 政府関連施設
- 2 . 軍・警察関連施設
- 3 . 外交団、国際機関関連施設
- 4 . 米国、英国、イスラエル権益施設
- 5 . ショッピングセンター、レストラン、ナイトクラブ、イベント会場、観光施設、キリスト教会、ホテル、大学・教育施設
- 6 . 高層ビル
- 7 . 航空機・空港、列車・駅など交通機関
- 8 . ガス・石油等大規模プラント・プロジェクト施設

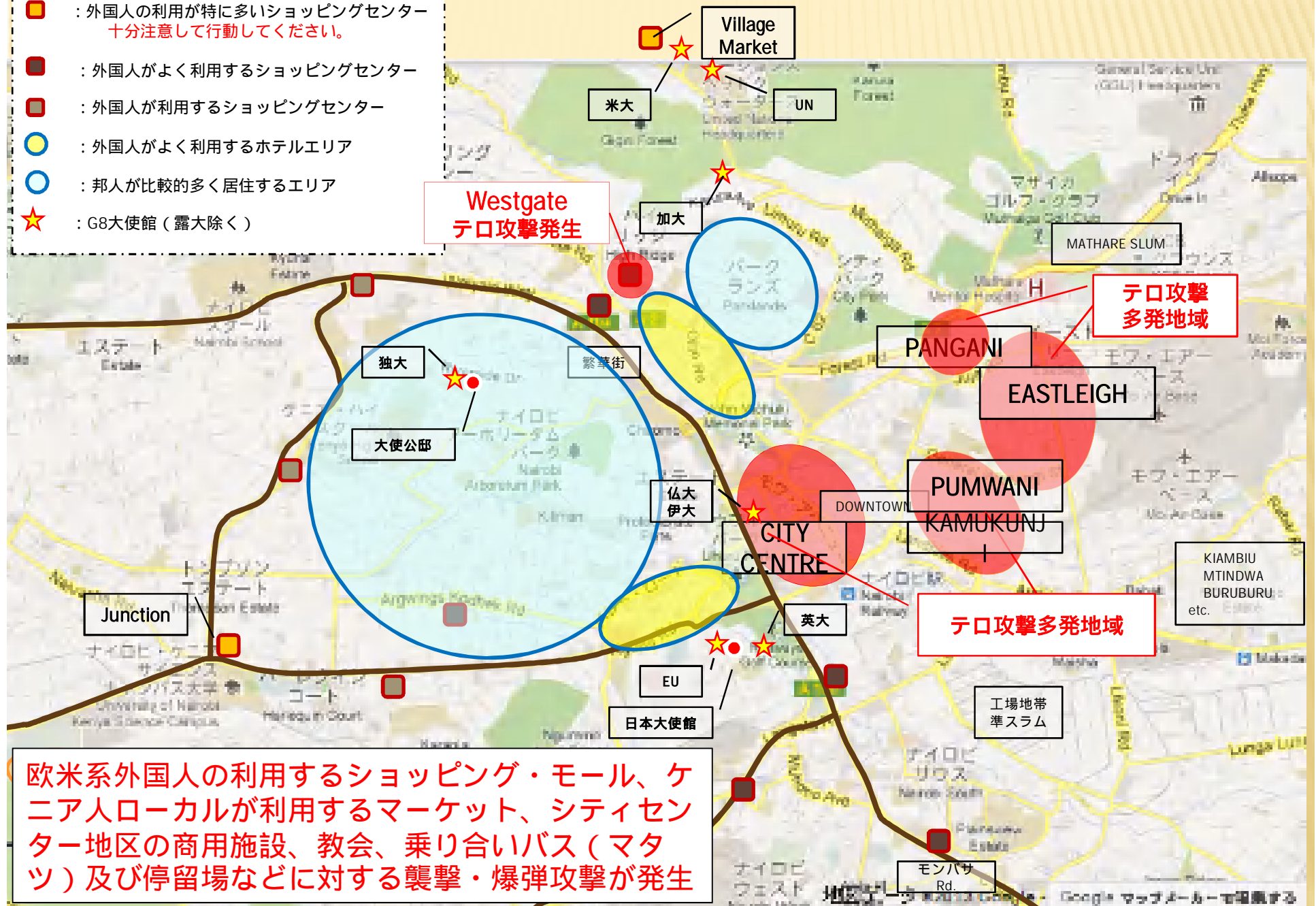
テロ攻撃・テロ情報関連地域



ナイロビ市内テロ攻撃発生地域

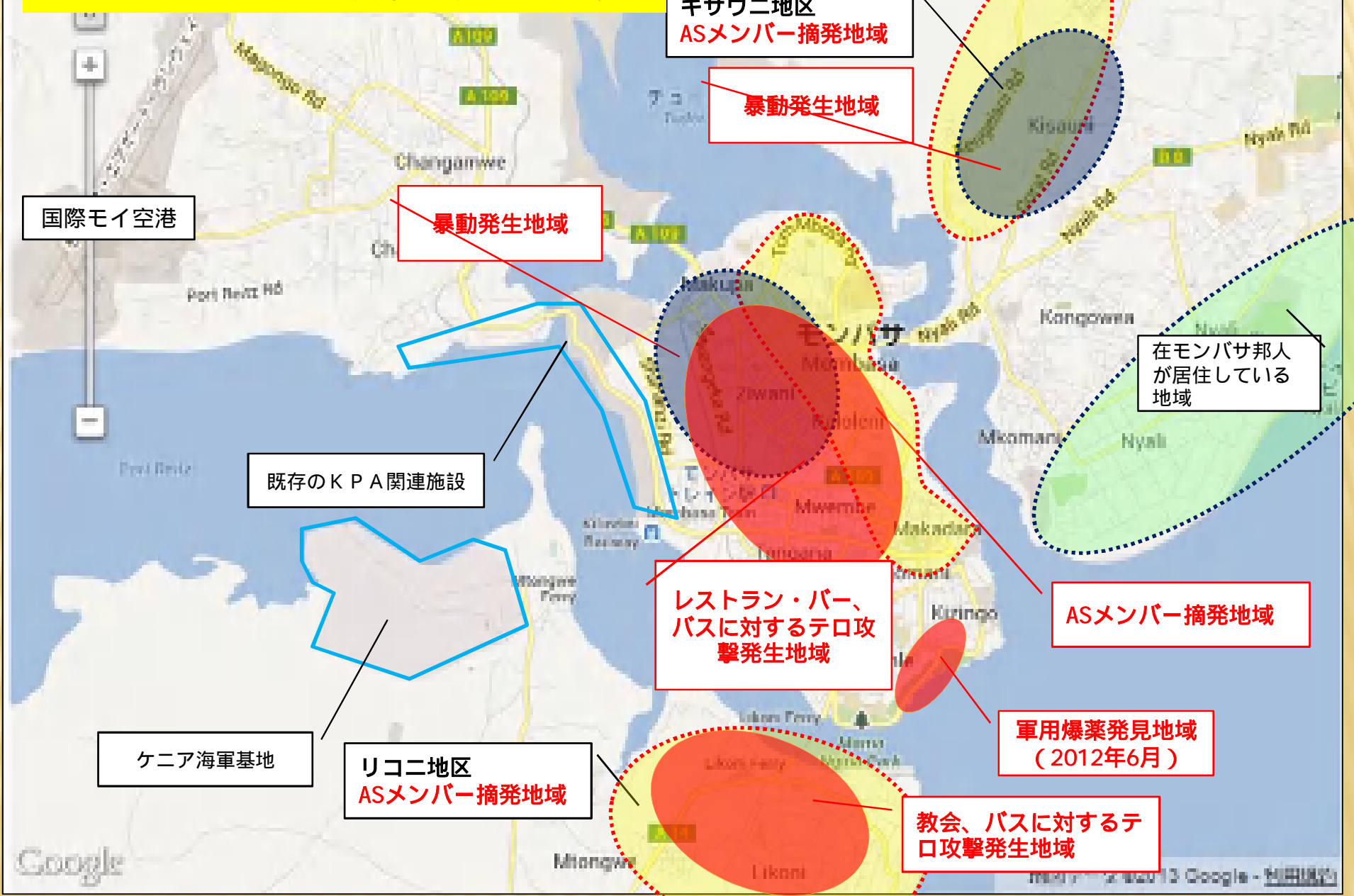
凡例

- : 外国人の利用が特に多いショッピングセンター
十分注意して行動してください。
- : 外国人がよく利用するショッピングセンター
- : 外国人が利用するショッピングセンター
- : 外国人がよく利用するホテルエリア
- : 邦人が比較的多く居住するエリア
- ★ : G8大使館（露大除く）



欧米系外国人の利用するショッピング・モール、ケニア人ローカルが利用するマーケット、シティセンター地区の商用施設、教会、乗り合いバス（マタツ）及び停留場などに対する襲撃・爆弾攻撃が発生

沿岸地域のテロ情 【モンバサ・テロ攻撃等発生地域】



ナイロビ・イスリー地区における大量の武器押収



イスリー地区 (Eastleigh)

ナイロビ市内中心部から北東約3キロメートルに位置
人口約10万人。大多数は、ソマリ系。通称「リトル・モガディシュ」
報道等によれば、以下が指摘。

- ・ A Sへ資金支援、資金送金の経由地、A Sの隠れ家、最終作戦計画・出撃拠点、リクルート場所
- ・ ソマリアからの武器密輸の終着点
ケニア軍のソマリア進攻後（2010年10月）、**周辺地域では爆弾テロ事件が多発した。**
主要各国は同地区を渡航禁止地域に指定。
2014年4月、治安当局はイスリー地区を中心とする地域に対し、大規模なテロリストや不法滞在者の摘発作戦を実施。不法滞在者や難民ら4,000人以上を拘束した。

ガリッサ郡ガリッサ大学襲撃事件



4月2日午前5時30分頃、ガリッサ郡所在ガリッサ大学に対し、AK47ライフル銃と手りゅう弾で武装したAS戦闘員4名が襲撃を行い、約270名の人質を取り、学生寮を占拠。

襲撃犯は、非イスラム教徒のみを殺害。大学外周をケニア軍が包囲し、武装警察部隊が午後5時頃に突入。襲撃発生から16時間後の同日午後9時30分頃に事件は終結。

死者148名（学生142名、大学警備員3名、警察官3名）・負傷者104名

ASは事件発生後、犯行声明を発出。ケニア軍がソマリアから撤退しなければ、「ケニアの都市は血によって赤く染まり続けるだろう。」と警告。

ケニヤッタ大統領は、「ソマリアが平和で安定した国家となるまでソマリアからケニア軍を撤退させない。」とASと闘う強い意志を表明。

ケニア国内テロ情勢（４月～８月：報道から抜粋）

ナイロビ

- ・ナイロビにおけるテロ関連事件の発生なし
但し、治安機関によるＡＳ関係者の逮捕、爆弾等の押収あり

ケニア沿岸部

- ・ラム郡におけるケニア軍に対する襲撃事件（６/１４、ＫＤＦ２名死亡）
- ・ラム郡におけるＡＳによる説法（８/１５、死者等なし）など

ケニア北東部

- ・ガリッサ郡ガリッサ大学襲撃事件（４/２、学生等１４８名死亡）
- ・ガリッサ郡における警察官襲撃事件（４/２５、警察官２名死亡）
- ・ガリッサ郡ユンビスに対する襲撃事件（５/１９、住民２０名死亡）
- ・マンデラ郡の行政官誘拐殺害事件（４/２３、行政官１名死亡）
- ・マンデラ郡ケニア軍に対する襲撃事件（６/１４、兵士２名死亡）
- ・マンデラ郡非ムスリム襲撃事件（７/７、工員１５名死亡）など

テロ情勢のまとめ

ナイロビ

- ・ A S による自動車爆弾や自爆テロベストを使用した爆弾テロ、AK47ライフル銃等による襲撃など大規模テロ攻撃に警戒
- ・ ソフト・ターゲットに対するテロ攻撃に警戒

ケニア沿岸部

- ・ 過激化したホームグロウン・テロリストに警戒
- ・ 手りゅう弾・けん銃等を使用した中・小規模テロ攻撃に警戒
- ・ ボニ森林（Boni Forest）に潜伏する A S 戦闘員によるテロ攻撃に警戒
- ・ モンバサ共和評議会による治安機関に対する攻撃に警戒

ケニア北東部（ A S による攻撃のおそれが最も高い地域）

- ・ 行政機関、教育機関、治安機関、キリスト教会などの施設に対するテロ攻撃に警戒
- ・ A S による誘拐に警戒

テロ組織 I S I L と A S の関係

シリアにおける I S I L による邦人殺害事件

- ・ 2015年1月シリアにおいて、I S I L が邦人男性 2 名を公開処刑し、日本人を標的とすることを宣言。

I S I L と A S の連携

- ・ 2012年2月 A S は A Q に忠誠を誓っていたが、2014年9月の最高指導者殺害後以降、I S I L が A S に急接近。
- ・ ソマリア国内で劣勢下にある A S が生き残りを図るべく資金支援や外国人戦闘員の獲得などを目的に I S I L と連携か？

日本人への影響

I S I L と A S が合流に至ると、東アフリカにおいて日本人に対する攻撃の可能性が増大

テロ攻撃への心構え

- 【その1】 テロの脅威は日常生活空間内に潜んでいるとの認識を
- 【その2】 セキュリティが高い施設でも、テロ攻撃は十分発生する可能性があるとの認識を
- 【その3】 自らが外国人であり、日本人もテロ攻撃や誘拐の標的であるとの認識を
- 【その4】 爆弾・銃器を使ったテロ事件が今後も発生する可能性が極めて高いとの認識を

テロ攻撃を意識しながら、生活しなければならない

テロ攻撃からのリスク軽減策

- 【その1】 通勤時間帯・夕刻など混み合う時間帯のバス停留所等には近づかない**乗り合いバス（マタツ）**への乗車を控えるよう警戒を
- 【その2】 **欧米系外国人客の多いショッピング・センター**など利用時は、十分過ぎる警戒を
- 【その3】 買い物等は、**人で混み合う時間帯を避け**、午前中の早い時間などの工夫を
- 【その4】 **正面エントランス及び付近**での待ち合わせ、同じく正面エントランス付近のレストラン・カフェ等は避けるなどの警戒を
- 【その5】 **セキュリティーの十分なホテル**の利用を。**ロビー及び付近**での待ち合わせ、同じくロビー付近のレストラン・カフェ等は避けるなどの警戒を
- 【その6】 周囲の状況から、**不審な人物（著しく厚着、覆面やフード姿、大きな手荷物、リュック等）**には注意し、発見時はその場から離れるなどの警戒を
- 【その7】 **爆発音・銃撃音を聞いた**ら直ちに伏せ、**這うように移動して柱・壁周辺店舗などに身を隠す**、できる限り姿勢を低くし現場から退避を
- 【その8】 テロ現場付近に居合わせたら、直ちに退避し、決して現場に近付かない（**第2波攻撃のおそれ**）
- 【その9】 テロ現場から離れていても十分警戒し、可能な限り自宅など安全な空間に避難する（**同時多発テロのおそれ**）

誘拐対策

- 1 **ソマリアと国境を接する北東地域、沿岸地域ラム郡には行かないこと**
- 2 **目立たないようにすること**
服装、行状、習慣的行動は目立たないように
- 3 **行動を予知させないこと**
通勤経路、自宅を出発或いは帰宅する時間を変化させる。
単独での外出やジョギングなどの運動を避ける。
毎日、同一時間帯や同一場所での運動は避ける。
人気のない場所には行かない。
- 4 **深夜の行動を避ける**
- 5 **常に警戒すること**
怪しい人、場所、物に対する警戒心を高めておく。
徒歩、車両移動中に尾行されていると感じる事象に遭遇すれば、直ちに安全な場所へ移動する（警察署、大勢の人が参集する店舗など）。
- 6 **車両移動時**
ドア等に社名、電話及び住所は明示しない。
車両の状態を常に良好にする。
 - ・ 良好な整備状況
 - ・ 燃料タンクは半分以上に保つ
 - ・ 良好なタイヤ、スペアタイヤ隔離された道路、暗い裏通りは極力避ける。

在留邦人の皆様へ

ケニアで生活する私達の日常生活空間では、テロが発生する可能性があることを認識し、**テロ攻撃からのリスク軽減策を日々実践**すること、そして、普段の生活、学習活動、経済活動を淡々と冷静に営む行動こそが、テロに屈しない大切なあり方であり、ひいてはケニアを支援することだと思われれます。